

やすらぎ通信

第45号（平成26年8月1日） 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

葉月(はづき)

浜辺の歌

作詞 林古溪 作曲 成田為三

あした浜辺を さまよえば
昔のことぞ 忍ばるる
風の音よ 雲のさまよ
寄する波も 貝の色も

ゆうべ浜辺を もとおれば
昔の人ぞ 忍ばるる
寄する波よ 返す波よ
月の色も 星のかげも

はやちたちまち 波を吹き
赤裳(あかも)のすそぞ ぬれひじし
病みし我は すでにいえて
浜の真砂 まなごいまは

気象学的には6月から8月が夏といわれていますが、8月になっても暑さの終盤とはとても思えない日が続きます。6月からお伝えしています24節気では、この時期に位置づけられているものとして立秋(8月7日頃)と処暑(同23日頃)があります。立秋は比較的良好に知られた節気ですが、季節のことば選考委員会のひとこと解説によると「秋の生まれるころ」、処暑の方はあまり知られていない印象ですが同じく「暑さが衰える」とされています。しかし、多くの人の実感としてはいったい何処にそのような季節の兆しが隠れているの?といったところでしょうか。

先日、日本気象協会から当やすらぎ通信編集部あてに一冊の本を送っていただきました。この冊子には昨年春に同協会が発表された「季節のことば」の策定に至るいきさつや選考委員会の意見、各界の反応などがまとめられています。それによりますとそもそもの策定の契機は先ほどの話のように昔の中国で定められた24節気の時期と日本の季節感にずれがあり、それを補うために新たに日本版24節気を選定しようとはじめられたようです。しかしながら、日本人の柔軟性か歴史の重みからか肌で感じる季節との差は認めつつも定着した24節気を改めることには多くの方々から様々な意見が寄せられ、結果、24節気とは別になじみのあることばや最近の風物詩となる言葉を選び、新たに「季節のことば」という形で発表されたそうです。併せて冬至や立春など一部のなじみのある節気を除くとあまり知られていないほかの節気も身近に感じていただくために「24節気ひとこと解説」もつくられました。

冊子をお送りいただいたのはやすらぎ通信で昨年6月号からこの「季節のことば」を取り上げさせていただいたことに縁があったようで、24節気についても今年6月からその解説を月毎の話題として紙上に挙げさせていただいているところです。

さて、このように伝統や風習は時として理屈とは別に得てして定着し続け、極端な場合滑稽となることさえあります。むしろ昔から守り続けられている行事などには、今となっては非科学的なものや迷信の類も多数あります。それでも、現代の人々もそれらを受け継ぎ、楽しみ、伝えていこうとしています。そこには人々の心の中に理屈と伝統のギャップを許容し時としてその差を敢えて楽しむようなたくまじさが秘められているからかもしれません。そのギャップを共有できることが文化なのでしょう。そして一方で必要に応じ新しい時代に合った習慣や行事、言葉が生み出され「季節のことば36選」のように生活の中に加えられいくつかは定着していくこととなります。これからも創造と消失を繰り返し地層のように私たちの文化は深く高く積み重ねられていくことでしょう。

節気についても確かに少し実感と異なる季節感はありますが、あえてその差を話題に挙げ使い続けることによりかえって季節の移ろいを感じるができるのかもしれませんが。この考え方は少し天邪鬼なのでしょうか?皆さんは如何思われますか。

ところで百貨店の衣服売場の季節感が節気のタイミングに近い感じがするのは私だけでしょか?

【(新) ～地域の医療機関の皆様へ～口腔外科より**医科歯科連携で予防する骨代謝調整薬起因顎骨壊死について】**

骨代謝調整薬の副作用として、顎骨壊死・顎骨骨髓炎が数%の頻度で発症することが報告されています。これまでの報告では発症した骨壊死は難治性で根本的な治療法は確立されていません。顎骨壊死・顎骨骨髓炎の誘因として抜歯などの顎骨に対する外科的処置やう蝕、歯周病（歯槽膿漏）による口腔の不衛生が挙げられています。本薬剤の治療前に口腔清掃実施群、未実施群で顎骨壊死・顎骨骨髓炎発症頻度を検討した結果、口腔清掃未実施群で812例中27例(3.3%)が発症したのに対し、口腔清掃実施群では154例では1例(0.6%)であったと報告されています。また、歯科処置前に抗菌剤投与が行われた43例では発症無く、抗菌剤投与を受けなかった群では32例中8例に骨壊死がみられたとも報告されています。

骨代謝調整薬による顎骨壊死を予防するためには医科歯科連携の治療が欠かせません。具体的には骨代謝調整薬治療開始前に口腔内検査を行い、歯科治療を終了させて口腔内の状況を改善しておくことが最も重要です。また改善された口腔衛生状態を良好に保つためにも定期的な経過観察も欠かせません。更に、治療が開始された後に歯科治療が必要となった場合には、できる限り非侵襲的（抜歯などを避ける）な歯科処置に限定する必要があるため、治療時には適切な抗菌剤投与が早期に開始されることが重要となります。また一部の薬剤では休薬することで骨代謝が改善することから休薬の可否、休薬期間、代替え薬への変更など処方医との連携が必要です。

顎・口腔領域の診療を通じて、地域医療に貢献していきたいと存じますので、なにとぞよろしく御願い申し上げます。

歯科口腔外科主任部長 石原 修

【～地域の医療機関の皆様へ～小児医療センターからのお知らせ：小児救急受入れ拡大のご案内】

府立急性期・総合医療センター小児科をご支援いただき誠にありがとうございます。少し先送りになってはいますが、府市共同住吉小児医療センターの開設に向けて、“地域の患者さんを1次から3次まで受け入れる小児医療センター”を目指していきたいと考えております。

休日・夜間病診連携カードを導入しました

これは患者さんがかかりつけの先生を受診され、“今は大丈夫だけれども夜間や休日に病気が悪化するかもしれない”とかかりつけの先生が判断されたときに、かかりつけの先生から患者さんに渡されるカードです。このカードには病名と簡単な病状が書かれており、これを持って当センター時間外救急を受診されると、紹介患者さんと

同じように小児科当直医が診療いたします。ただ、夜間や休日は小児科医が1-2人で対応しますので、カードをお持ちでも病状によってはお待ちいただくことがございますが、ご了承ください。

2013年12月よりこのカードを導入し、毎月約20名の小児患者さんがこのカードを持参して当センター時間外救急を受診されています。少しでも地域の患者さんの安心が得られるように、かかりつけの先生と連携を取って診療にあたりたいと考えています。

大阪府立急性期・総合医療センター 小児科 休日・夜間診療連携カード	
様	
平成 年 月 日生	
診断名:	
病状・検査所見など:	
<small>上記患者様は当院かかりつけの方です。 病院を転院された際には、紹介書等として対応下さるよう、お願いいたします。尚、その旨を病院にご返事いただければ、診療に関する情報を相互に提供することについて、患者様から許可をいただいております。</small>	
有効期限 平成 年 月 日から5日間	
登録医療機関名	

小児重篤患者さん(小児内科疾患の3次救急)の受け入れを拡大しました

これまでも外傷や心肺停止の重篤な小児患者さんを当救命センターが受け入れてきました。

2014年5月より、小児救命救急で修練した小児科医を迎え、小児内科疾患の重篤患者さん、例えば 血漿交換や持続的血液透析が必要な患者さん、低体温療法を必要とする脳炎・脳症の患者さんなどにも受け入れを拡大し、当救命センターで小児科医と救急診療科医師とで集中治療を行います。

たとえ地域の小児患者さんが重篤な疾患にかかっても、自宅から近いところで十分な医療が受けられるように、当センターで小児重篤患者さんの受け入れ拡大をしていきます。

小児救急科部長 高野智子

【～地域の医療機関の皆様へ～ 神経内科からの一言二言】

神経内科からのお礼

昭和62年9月、当院の近代化の施策の一つとして神経内科が併設され四半世紀が経ちました。皆様方のご支援により府域を代表する神経内科に発展して来ました。心より御礼申し上げます。昨年度、皆様方からご紹介いただきました、いわゆる紹介率は98.4%と高率でした。入院症例も920名を超え、脳梗塞と神経難病が中心ですが、大部分が皆様方からの御紹介でした。逆紹介率ですが昨年度は96%と若干低値でしたが、24年度は100%を超え、地域連携は良好な関係を維持していると思っています。皆様方の信頼を損ねないよう努力しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成27年1月に難病法制定か

平成27年1月に、難病法が制定され、4月ごろから実際に運用されると言われています。現在当センターは府域唯一の難病の拠点病院として責務を果たしています。神経内科はその中心的役割を果たしておりますが、おそらく難病法制定後も同様の役割を担当することが予想されます。神経難病を地域の先生と連携して支援する事業の継続を今後もよろしくお願い申し上げます。

脳梗塞の rt-PA（血栓溶解療法）の使用可能時間が発症 3 時間以内から 4.5 時間以内に変わって、なにか変化があったでしょうか？

平成 24 年 9 月から発症 4.5 時間以内が使用可能と延長されました。合併症や効果は 3 時間以内使用可能時と変化はないとの報告が大部分で、今後もさらに使用可能時間の延長が検討されるでしょう。問題は、全国的にも、当科においても同様ですが、rt-PA 例の増加が思ったほど伸びないということです。平成 25 年度の脳卒中センター入院患者 431 名中救急隊からのホットライン経由は 50% の 216 名でした。100% ホットライン経由が理想と考えられ、患者さん自身への教育、すなわち「脳梗塞は急性疾患であり、おかしいと感じたらすぐ 119 番で救急車を呼ぶ」というパブリックキャンペーンが重要と思います。一次予防、二次予防目的で貴院通院中の患者さんへの教育もよろしくお願い申し上げます。

神経内科主任部長 狭間敬憲

【～地域の医療機関の皆様へ～ 消化器外科のめざすがん医療】

初診時から始まる低合併症・低侵襲を目指したがん医療

初診時から栄養状態評価・体組成測定（骨格筋量など）・身体機能評価（握力、歩行速度など）を行い、がん患者さんの数十%に見られる 2 次的サルコペニアの拾い上げを行います。術前にはリハビリ部門による運動療法介入を行い、術後の合併症発生予防を図ります。手術は、食道がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がんに対し病期に応じて、胸腔鏡や腹腔鏡を用いた開胸・開腹しない低侵襲鏡視下手術や機能温存手術を積極的に導入しています。特に直腸がんでは da Vinci によるロボット手術を全国でもいち早く導入し既に 18 症例で安全に施行しさらに症例数を積み重ねています。

外科手術症例数は年々増加しており 2013 年度は 1156 例であり、その実績からがん診療連携拠点病院の役割を担っています。術直後には E-PASS による予測合併症発生率・死亡率を計算した上で厳重な術後管理を行います。退院後も積極的な栄養介入を継続し、骨格筋量および身体機能の維持に努め、合併症のない在宅生活復帰をシームレスに支援します。

総合医療センターの強みを生かしたがん医療

がんは高齢者の病気であり、来院時に脳血管・心臓・腎臓の障害や糖尿病などを合併した患者さんは少なくありません。他院では治療が難しいとされたがん患者さんに対しても、各科の高度専門家集団との円滑な連携で「地域の最後の砦」としての自覚の元に「決して逃げないがん医療」を担って行きます。

最新のがん医療を日本全体へ情報発信

進行がんに対しては抗がん剤、放射線、手術を組み合わせた集学的治療を積極的に行い治癒率の向上を目指します。抗がん剤治療の新規開発においては、多施設共同臨床試験への参加・登録数は全国でも有数であり、最新の知見に基づいた治療、全国でも限られた数十の施設でしか受けられない新規薬剤を使った治療や Global 治験、厚生労働省の認可を受けた先進医療など、他の施設では得られない治療を提供出来るこ

とは大きな特色です。

早期がんに対する地域連携パスをはじめ先生方と連携を密に取りながら、最新・最良の医療を提供することで先生方のお役に立てるよう精進して参ります。

尚一層のお引き立てを、大阪府立急性期・総合医療センター消化器外科に賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

消化器外科主任部長 藤谷和正

【「医療相談」コールセンターのご利用を ー地域医療連携センターー】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

(年末年始、土・日・祝日除く)

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科

皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスも行っています。

今月の催し

【第24回万代・夢寄席「三代目桂春団治一門会

～笑って笑って元気回復！健やかな夏を夢寄席で！～】

日 時 8月8日(金) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 落語家 桂 福車、桂 寅之輔
参加費 無料

【(新) 森ノ宮医療大学連携事業

市民公開講座「予防・治療から社会復帰へのケア～最近の進歩～」

第2回「前立腺肥大・前立腺がん」(当センター山口誓司主任部長 講演参加)】

日 時 8月10日(日) 午後1時30分～3時30分(受付開始午後1時)
場 所 森ノ宮医療大学(大阪府大阪市住之江区)
内 容 基調講演「前立腺肥大・前立腺がん—診療の進歩」

(泌尿器科主任部長 山口誓司)

講演1「排尿障害と鍼灸治療」

(森ノ宮医療大学/保健医療学部 鍼灸学科 准教授 松熊秀明)

講演2「尿失禁と理学療法」

(森ノ宮医療大学/保健医療学部 理学療法学科 教授 上田喜敏)

講演3「排尿障害と看護」

(森ノ宮医療大学/保健医療学部 看護学科 講師 吉川有葵)

参加費 無料

【すこやかセミナー「過活動膀胱」】

日 時 8月22日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 泌尿器科 副部長 高尾徹也
参加費 無料



【第34回相愛大学連携コンサート

「声楽 ～秋はもうすぐそこに… 歌とピアノで彩る晩夏のハーモニー～」】

日 時 8月28日(木) 午後2時～3時

場 所 本館3階 講堂

出 演 [声 楽] 中井祥子

[ピアノ] 樋口友佳子

入場料 無料

【第13回病院ギャラリー企画展 須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展

— 近江散歩 — 】

『街道をゆく』は、司馬遼太郎氏が、1971年から1996年まで、25年以上にわたって週刊朝日に連載し、単行本にもなっている歴史紀行文学です。国内各地はもちろん、中国やモンゴル、さらには遠く南蛮(スペイン、ポルトガル)やオランダ、アイルランドをはじめ世界各地の街道も訪ね、司馬氏の洞察力に富んだ味わい深い文章により、その国や地域の歴史と風土を描いています。須田剋太は連載開始から1990年までの約20年間、司馬氏に同行してスケッチを重ね、「街道をゆく」の挿絵を制作しました。

それらの作品は、挿絵として各地の雰囲気や情景を伝え読者を楽しませるだけでなく、独特の画風で色彩豊かに描かれ、絵画作品としても優れたものとなっています。[大阪府立江之子島文化芸術創造センターホームページ内の解説文より抜粋]

今回は第12回に引き続き、須田剋太が描いた「街道をゆく」シリーズの中から『近江散歩』を紹介させていただきます。

(本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。)

開催期間 8月4日(月)～11月7日(金)まで

展示場所 本館2階 病院ギャラリー

展示作品 近江街道 28枚

※ 2014年8月28日(木)13時30分から大阪府府民文化部都市魅力創造局文化課・主任研究員の中塚宏行氏による作品説明会(約20分)を病院ギャラリーで開催いたしますのでご参加ください。

※ なお、第12回病院ギャラリー企画展 須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展—竹内街道、河内みち、堺・紀州街道、奈良散歩—は2014年8月1日(金)までとなります。

【(予告)すこやかセミナー「成人ぜんそく治療のポイント

～喘息外来の目指すもの～】

日 時 9月11日(木) 午後2時～3時

場 所 本館3階 保健教室

講 師 免疫リウマチ科 主任部長 藤原弘士

参加費 無料

【(予告) 府民公開講座「ほくろのように見えるガン」】

日 時 9月13日(土) 午後1時30分～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 皮膚科 部長 中島武之
参加費 無料

【(予告) 相愛大学連携 第40回外来糖尿病教室

知って得する! 糖尿病との付き合い方】

日 時 9月17日(水) 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 あなたの結果はどうでしたか?～検査の話～
(糖尿病代謝内科医師 清水彩洋子)
腎臓の働きと検査のお話し(臨床検査科臨床検査技師 谷 恵理子)
脂質について(相愛大学 未定)
参加費 無料

【(予告) 第25回万代・夢寄席「桂かい枝」】

日 時 9月24日(水) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 落語家 桂かい枝
参加費 無料



【(予告) すこやかセミナー「がんと診断されたときから緩和ケア」】

日 時 9月26日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 がん性疼痛認定看護師 川本良子、緩和ケア認定看護師 門田昭子
参加費 無料

【(予告・募集) 作品展(コスモス会の開催と作品の募集について)】

今年も当センターとコスモス会の共催による作品展を10月27日から29日の間、本館3階講堂で開催する予定です。つきましては、出展作品を下記のとおり募集いたしますので、皆さん奮ってご応募ください。

応募資格 患者さんとその家族及び病院関係者
応募方法 出展ご希望の方は、当センター総務グループ(06-6692-1201
内線2313)へお問い合わせください。

応募作品例 絵画、写真、書道、手芸ほか
 作品受付日 10月27日(月) 午前9時～10時
 作品返却日 10月29日(水) 午後4時～5時

Topics

【管理栄養士のコーナー】 ～ちょっとおいしい話～



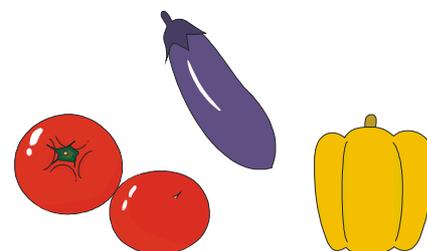
夏野菜は水分を豊富に含んでいるものが多く、身体にこもった熱を冷ましてくれる効果があります。また、鮮やかな色合いは食欲を刺激し、夏バテ予防にもぴったりです。

そこで今回は、栄養たっぷりの夏野菜を使った、『中華風マリネ』をご紹介します。

《材料》	(1人分)	(2人分)
なす	1/2 本	1 本
パプリカ	1/2 個	1 個
トマト	1/4 個	1/2 個
ごま油	小さじ 1/2 杯	小さじ 1 杯
★ { 醤油 酒 酢 砂糖	大さじ 1/2 杯	大さじ 1 杯
	大さじ 1 杯	大さじ 2 杯
	大さじ 1 杯	大さじ 2 杯
	小さじ 1 杯	小さじ 2 杯
白ごま	少々	少々

(1人前) エネルギー：90kcal たんぱく質：2.5g 脂質 2.8g 食塩相当量：1.3g

- ① なすは乱切りに、パプリカとトマトは2cm角に切る。
- ② なすとパプリカはごま油で炒める。
- ③ ★の調味料をボールに合わせておく。
- ④ ③にトマトと炒めた②を漬け込む。
- ⑤ 器に盛り付け、白ごまをふりかける。



お好みで、きゅうりやズッキーニなどの夏野菜を使ってみてはいかがでしょうか。温かいままでも、冷やしてもおいしくいただけます。

栄養管理室 管理栄養士 織田 都

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 病棟クラーク 宮下さんの巻】

私は病棟クラークとしてナースステーションで事務全般を担当しています。

業務の中には入退院の案内、面会者の応対、電話対応、医療材料の請求と管理、カルテや書類の管理などがあります。この中でも特に注意しているのは医材の管理です。診療材料の不足が原因で患者様の治療に影響が及ぶことはあってはならないので、欠品やまた請求過多にならないよう適正に請求するよう努力しています。

入社して半年、振り返ってみると仕事に慣れないため自信が持てず、悩み落ち込んだこともありました。そんなとき入院患者さんから「仕事お疲れ様。」と暖かい言葉をかけて頂いたとき、本当に嬉しかったことを思い出します。今では先生や看護師さんまた助手さんとのコミュニケーションも自分なりに取れるようになり、毎日“人との繋がり”を感じながら業務ができています。

これからも、病棟クラークという素敵な仕事を笑顔で頑張っていきたいと思います。

その他のお知らせ

【「急性期・総合医療センターの最新治療がわかる本」が出版中です！】

府民の皆さま向けに、当センターで行われている最新治療をご紹介します書籍を出版しました。当センターの医師や看護師らが、分かりやすく、簡潔に、しかも必要な情報はきちんと把握できるように執筆しています。

この本は、いわゆる医学書や診療ガイドブックではなく、健康なときから病気にかかったときまで、府民がよりよい治療を選択する際に役立つ健康情報を掲載しています。病気を理解し、よりよい治療を選択するための案内書としてご活用いただければ幸いです。



価格：1,998円（消費税8%込）

- ◇当センター内のローソンや近隣の一般書店等で販売します。
- ◇当センター内のローソンでは、下記の方を対象に割引販売を実施します。
 - ・当センターの診察券をレジで提示いただいた方

- ・当センターで開催されるイベント参加者にお配りする書籍の案内リーフ（割引券付き）をレジで提示いただいた方
割引価格：1,700円（消費税8%込）

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。（ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。また、デビット機能が付与されていないカードもありますので、ご注意ください。）

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込み」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。